

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																	
専門学校 麻生工科大 自動車大学校		平成20年3月31日		野見山 秀樹		〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-8-28 (電話) 092-433-0634																	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																	
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日		麻生 健		〒820-0018 飯塚市芳雄町3番83号 (電話) 0948-25-5999																	
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
工業	工業専門課程	1級自動車整備科		—	平成22年文部科学大臣告示 第156号																		
学科の目的	高度技術や環境保全等の社会的に重要なテーマに対応できる国家一級小型自動車整備士を養成する。また幅広い整備対応を目的に二級二輪自動車整備士を養成する。																						
認定年月日	平成 26 年 3 月 31 日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
	4年 昼間	3735時間	1110時間	0時間	2625時間	0時間	0時間																
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
220人		147人	3人	7人	1人	8人																	
学期制度	■前期:4月1日~8月31日 ■後期:9月1日~3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う																		
長期休み	■学年始:4月1日~4月11日 ■夏季:8月3日~9月13日 ■冬季:12月22日~1月11日 ■学年末:1月30日~3月31日			卒業・進級 条件	履修すべき全授業科目に合格していること。出席日数が出席すべき日数の90%以上であること。国土交通省の定める規定の時間を満たしていること。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 補講の実施、休学、留年			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有																		
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 自動車ディーラー、自動車整備業界			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に係る平成29年5月1日時点の情報)																		
	■就職指導内容 職業安定法第33条の2に基づいて、求職票を受理した全学生を本校で活動する求職者として登録し、求職者の依頼に基づき就職の斡旋を行う。求職者は麻生塾就職斡旋規定のルールを遵守。				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一級小型自動車整備士</td> <td>②</td> <td>33人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	一級小型自動車整備士	②	33人	8人								
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																		
	一級小型自動車整備士	②	33人		8人																		
■卒業生数 33人 ■就職希望者数 33人 ■就職者数 33人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 %			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																				
■その他 ・進学者数: 0人			■自由記述欄																				
(平成 28 年度卒業者に係る 平成29年5月1日 時点の情報)																							
中途退学 の現状	■中途退学者 6 名 ■中退率 10 % 平成28年4月1日時点において、在学者139名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者133名(平成29年3月31日卒業者を含む)																						
	■中途退学的主要原因 学習意欲の喪失、単位未取得、出席不良 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生ガイダンス実施マニュアルに沿った細かな面談の実施																						
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 東日本大震災により被災し進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を全額免除する。(卒業まで) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																						
当該学科の ホームページ URL	https://entry-acet.asoiuku.ac.jp/about/subject.php																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

近年における自動車整備業界においては、

1. 電子装置の採用等、自動車の新技術の普及と将来的には、低公害車の普及による更なる高度整備技術革新の進展が待っている。
2. 多様化する自動車ユーザーの保守管理を支援するため、整備工場には、早く、正確で、分かり易い情報の提供が求められ、整備士には、この情報提供の先導的な役割が期待されている。
3. 社会的に環境保全の重要性が認知され、整備工場におけるリサイクルの推進等、環境保全に向けた対応を図る必要性が増大している

などの状況下である。

これらの社会的に重要なテーマについて対応できる整備士を育成することを基本に、ディーラー等へのインターンシップや企業訪問等を通じ、現在要求される技術を的確に把握し分析し、高度な実践的カリキュラムを学習していく。また、国土交通省の指針に合わせた幅広い高度な整備技術能力(新しい電子制御機構や新技術、振動騒音にも対応できる総合診断力)とビジネス感覚を身につけた整備技術コンサルタントとして人材を育成。さらに、環境保全や安全管理の学習をとおして、職場や地域環境保護に対しても先導的な役割を担うことのできる人材を育成することを基本に、適宜編成委員会を開催し授業内容等について確認を行うとともに、企業等より実習の授業及び教員に対し専攻分野における実務に関する研修を組織的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、会議の結果をカリキュラム会議に報告するものとする。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

カリキュラム会議は、上記第1項の結果を踏まえ、カリキュラム等の検討を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
岸原 武志	一般社団法人 福岡県自動車整備振興会 指導部長	平成28年11月1日～平成29年10月31日(1年)	①
堤 直樹	福岡トヨタ自動車株式会社 人事部長	平成29年8月1日～平成30年7月31日(1年)	③
坂口 哲也	福岡トヨタ自動車株式会社 サービス部長	平成28年11月1日～平成29年10月31日(1年)	③
野見山 秀樹	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長		
安部 倫太郎	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長代行		
小串 浩之	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長代行補佐		
永江 貴史	専門学校 麻生工科自動車大学校 主任		
小金丸 清	専門学校 麻生工科自動車大学校 教員		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回を原則とし開催

6月に1回 前年度カリキュラムの課題について 9月に1回 次年度カリキュラムの説明

(開催日時)

平成28年度

第1回 平成28年6月23日 15:00～17:00

第2回 平成28年9月2日 15:00～17:00

平成29年度

第1回 平成29年6月22日 15:00～17:00

第2回 平成29年9月13日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

学習指導

(委員意見)傾向的に法令が弱い。理解力を高める工夫を行い力を入れて指導する必要あり。

(活用状況)法令オリジナル教材を製作し理解しやすい環境を整え指導することとした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業は学生に対し就業体験活動を経験させる事により、学生の学習効果を高め、かつ即戦力となる事を基本方針とした学外教育を実施する。

国土交通省の指針に合わせ、自動車の点検整備においては「法令点検整備作業」「点検整備に伴う付帯作業」「各種点検整備」「一般整備」、故障原因探求においては「故障修理作業」「高度診断技術」「高度整備技術」「自動車新技術」、総合診断においては「作業廃棄物処理」「安全管理と作業効率」「アドバイザー業務、応酬話法」とビジネス感覚を身につけた整備技術コンサルタントとして人材を育成を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

業務内容及び条件については、国土交通省の定める基準に従い調整を行い決定する。但し、危険性の高い作業(含車両移動)については除外する。

実習実施店舗にて実習指導者を選任していただき、指導および監督を行う。また実習指導者は実習生から提出される「日報」および「体験実習記録」を毎日確認するとともに、定期的に評価。実習生は「初期;1週間後」「中期;1ヵ月後」「後期;最終」に自己評価後、実習指導者に提出し評価していただき、「後期;最終」評価終了後、事業場管理責任者にご確認いただき記名、捺印する。担当教員は適宜施設を訪問し、学生の学習状況について直接確認するとともに、実習担当者または事業場管理責任者と情報交換を行う。

実習終了時には、実習担当者による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
自動車整備作業 「体験実習」	1)自動車の点検整備 2)故障原因探究 3)総合診断	福岡トヨタ自動車(株)、(株)福岡トヨペット、福岡スバル(株)、福岡ダイハツ販売(株)等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修については、教職員に対して、現在の職務又は今後就くことが予想される職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。

専攻分野における実務に関する研修については、福岡県自動車整備振興会主催の技術研修及び法令研修を必須とし、各企業にて定期的に行われる技術研修を適宜受講。受講者はその内容を他教員へ展開することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

1. バンザイ研修

(期間)平成28年8月4日

(主催者)株式会社バンザイ

(目的)進化したアフターサービスの安全環境への取り組みの理解

(概要)スポット溶接、ボディアライニング、アライメント、衝突被害軽減ブレーキ、診断関連の現状及び問題点

(受講者)教員2名

2. マツダSKYACTIV技術セミナー

(期間)平成28年8月4日～5日

(主催者)マツダ株式会社

(目的)マツダの自動車開発及び技術の理解

(概要)車両開発部門:人馬一体の走りに関する開発及び新技術について

デザイン部門:マツダデザインの挑戦について

マツダ販売会社:風土改革への取り組みについて

(受講者)教員1名

3. いすゞ販売会社研修

(期間)平成28年8月5日

(主催者)いすゞ自動車販売株式会社、いすゞ自動車九州株式会社

(目的)大型車の技術の理解及び大型車整備の現状把握

(概要)技術:コモンレール、エアブレーキ

整備設備:工場見学

(受講者)教員1名

4. 日産技術講習会

(期間)平成28年8月25日～26日

(主催者)日産自動車株式会社

(目的)日産の技術の学習

(概要)日産先進技術に関する講習(パーキングアシスト等)

日産EV技術に関する講習

5. 福岡県自動車整備振興会主催 整備主任者法令研修

(期間)平成28年11月10日

(主催者)福岡県自動車整備振興会

(目的)基本法令としての整備事業に関する道路運送車両法等及び最近改正された法令及び主要通達等

(概要)・整備事業関係:道路運送車両法の一部改正等

・指定整備事業関係:用途変更における構造等の同一の範囲等

・検査業務関係:ナンバープレートの表示義務の明確化等

(受講者)教員1名

6. 福岡県自動車整備振興会主催 整備主任者技術研修

(期間)平成29年2月9日

(主催者)福岡県自動車整備振興会

(目的)最近1年間に自動車メーカー各社が発表した新機構・新装置の代表的なものについての構造・機能等を学ぶ

(概要)・ハイブリット車の故障探求 ・富士重工ハイビームアシスト ・本田技研パーキングブレーキシステム

(受講者)教員1名

② 指導力の修得・向上のための研修等

1. 新任教員研修

(期間)平成28年3月4日

(主催者)学校法人麻生塾

(目的)・麻生塾の概要を理解し、自分の果たす役割を明確にする

・麻生塾のクラス運営、授業法を理解する

・同期入社間の交流を図る

(概要)学校概要、学内ルール、業務内容、授業法など

(受講者)1名

2. 麻生塾スキルアッププログラム「カリキュラム作成指針」

(期間)平成28年7月20日

(主催者)学校法人麻生塾

(目的)法令に準拠した体系的なカリキュラム作成方法を習得する。

(概要)教育理念に基づくカリキュラム編成、法令等に基づく要件、単位の考え方、カリキュラム編成上の注意事項

(受講者)教員1名

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

1. 日産技術講習会

(期間)平成29年7月27日～28日

(主催者)日産株式会社

(目的)日産の技術理解

(概要)日産先進技術に関する講習(プロパイロット、e-Power)

(受講者)教員1名

2. バンザイ研修

(期間)平成29年8月4日

(主催者)株式会社バンザイ

(目的)最新の整備技術、機器類について

(概要)未定

(受講者)教員1名

3. 福岡県自動車整備振興会主催 整備主任者法令研修

(期間)平成29年10月10日

(主催者)福岡県自動車整備振興会

(目的)基本法令としての整備事業に関する道路運送車両法等及び最近改正された法令及び主要通達等

(概要)未定

(受講者)教員1名

4. 福岡県自動車整備振興会主催 整備主任者技術研修

(期間)平成30年2月8日

(主催者)福岡県自動車整備振興会

(目的)最近1年間に自動車メーカー各社が発表した新機構・新装置の代表的なものについての構造・機能等を学ぶ

(概要)未定

(受講者)教員1名

②指導力の修得・向上のための研修等

1. 教育コーチング研修

(期間)平成29年8月23日～24日

(主催者)全国専門学校教育研究会

(目的)教員の教育力向上と学校運営力の向上

(概要)コーチングを実践できるまでのスキルトレーニングとコーチングのポイントを学習し、深い学びにつながるアクティブラーニングを支える対話力のスキルトレーニング

2. 麻生塾スキルアッププログラム「クラス運営」

(期間)平成29年5月10日

(主催者)学校法人麻生塾

(目的)先輩教員の具体的な手法を知り、クラス運営のヒントを得る。

(概要)学生への話し方、指導の仕方、グループ作りの手法、雰囲気作りについて学ぶ。

1対多と1対1での話し方の違い、どういうケースにどちらが効果的かを学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	建学の精神、法人の理念、教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	教員組織の整備、運営会議での共有、防災・非常時対策、コンプライアンス
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、授業評価による改善、付加的教育、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、学生の就職活動・卒業率
(5)学生支援	担任他との定期面談、有資格者との就職相談・生活相談、奨学金、卒業生支援
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	ADの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	規程通りの運営、個人情報保護、ハラスメント防止、学内規程の整備
(10)社会貢献・地域貢献	社会的活動の推進・実施、公開講座、企業・地域・行政との連携
(11)国際交流	留学生の受入れ・支援

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

3年次の前期に実施されている三者面談は、学生や保護者からの要望や意見を聞くことが出来、また学校からの伝言が確実に伝えられることから、有効な手法である。特に学習面で高難度の授業であることを学生、保護者、学校で共有できることは指導面からも効果が期待できる。

(活用状況) 毎年、4月後半より三者面談を行い、前期中期に終了できるように計画する。内容は、就活、1級課程での学習内容・自宅学習、海外研修を主な内容とする。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
堤 直樹	福岡トヨタ自動車株式会社 人事部長	平成28年8月1日～ 平成29年7月31日(2年)	企業
市川 利治	福岡トヨタ自動車株式会社 営業業務部部长	平成27年11月1日～ 平成29年10月31日(2年)	企業
藤田 一	ダイハツ工業株式会社 執行役員	平成29年6月1日～ 平成31年5月31日(2年)	企業
時松 真秀子	平成23年度卒業生	平成27年11月1日～ 平成29年10月31日(2年)	卒業生
杉本 誠	平成22年度卒業生	平成28年6月1日～ 平成30年5月31日(2年)	卒業生
林 紀子	保護者	平成27年11月1日～ 平成29年10月31日(2年)	保護者
村上 伸二	東比恵2丁目町内会	平成27年11月1日～ 平成29年10月31日(2年)	地域住民
大和 豊	筑紫台高等学校 校長	平成27年11月1日～ 平成29年10月31日(2年)	高等学校
下村 輝夫	ものづくり人材育成センター 顧問	平成28年6月1日～ 平成30年5月31日(2年)	団体

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ 毎年9月)

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/disclosure/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて、教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた評価を行い、その結果を校長に報告する。校長は、その結果を踏まえ、教育活動及び学校運営の改善を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校法人の沿革、教育の目標、学則、諸規程
(2)各学科等の教育	学科の教育方針、年次別目標、目標資格、カリキュラム、進級・卒業要件、他
(3)教職員	教員一覧、専任・兼任教員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	グローバルシティズンベーシック、インターンシップ、教育課程編成委員会
(5)様々な教育活動・教育環境	学園祭、ボランティア活動、クラブ活動
(6)学生の生活支援	臨床心理士による学生相談室、ハラスメント相談、留学生支援、障がい者支援
(7)学生納付金・修学支援	金額・納付時期、分割納入制度、授業料減免、奨学金、被災地支援
(8)学校の財務	貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価、
(10)国際連携の状況	インドネシアのBINUS大学、留学生専用学生寮、(日本語科)
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

パンフレット、募集要項、学生便覧、Webサイト

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/acet/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 1 級自動車整備学科) 平成 29 年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎自動車整備	整備の基礎知識、基本作業、測定作業、点検用機械工具	1 通	30	2	○			○		○	○	
○			ガソリンエンジン構造	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置燃料装置、吸排気装置、電気装置	1 通	75	5	○			○		○	○	
○			ディーゼルエンジン構造	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、電気装置	1 後	30	2	○			○		○		
○			シャシ構造	動力伝達、アクスル、サスペンション、ステアリング装置、ホイール及びタイヤ、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー	1 通	75	5	○			○		○	○	
○			電装構造	電気回路、オームの法則、電気、電子についての基礎、半導体、バッテリー、始動装置、充電装置、点火装置	1 通	75	5	○			○		○	○	
○			二輪自動車	エンジン、シャシ、電気装置、点検整備	1 後	15	1	○			○		○		
○			材料・燃料・油脂	自動車に使われている材料についての種類、性質、特性、燃料、油脂の内容、潤滑及び潤滑油、作動油の内容	1 前	15	1	○			○		○		
○			数学 I	単位、基礎的な原理・法則、自動車の諸元、電気の基礎	1 後	15	1	○			○		○		
○			数学 II	単位、高度な原理・法則、自動車の諸元、電気の応用（応用編）	2 前	15	1	○			○		○		
○			法規・検査 I	道路運送車両法、道路運送車両の保安基準、道路運送車両の保安基準の細目を定める告示	1 後	15	1	○			○		○		
○			法規・検査 II	道路運送車両法、道路運送車両の保安基準、道路運送車両の保安基準の細目を定める告示	2 通	30	2	○			○		○		

○		ガソリンエンジン	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、電気装置、故障原因探求	2通	60	4	○			○		○	○
○		ジーゼルエンジン	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、電気装置、故障原因探求	2通	45	3	○			○		○	
○		シャシ	動力伝達、アクスル、サスペンション、ステアリング装置、ホイール及びタイヤ、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー、故障原因探求	2通	60	4	○			○		○	○
○		電装	エンジン、シャシ電気装置、始動装置、充電装置、点火装置、故障原因探求	2通	45	3	○			○		○	○
○		GCB I	「協働」の態度を持った学生生活、よりよい人間関係の構築に向けて、マナーの本質、グローバルシティズンとしての日常・目標・「志」に向けて	1前	15	1	○			○		○	
○		基礎実習	手仕上げ工作、機械工作、基本測定実習	1前	120	3				○	○		○
○		エンジン整備実習 I	エンジン本体、シリンダヘッド、シリンダブロック、ピストン、コンロッド、クランクシャフト、フライホイール、バルブ、カムシャフト	1通	160	4				○	○		○
○		シャシ整備実習 I	動力伝達装置、アクスル及びサスペンション、ステアリング装置、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー	1通	160	4				○	○		○
○		電装整備実習 I	始動装置、充電装置、点火装置、電子制御装置、灯火装置、計器、ホーン、ワイパ、ウォッシャー、エアコン、電気装置の配線	1通	160	4				○	○		○
○		エンジン整備実習 II	エンジン本体、シリンダヘッド、シリンダブロック、ピストン、コンロッド、クランクシャフト、フライホイール、バルブ、カムシャフト	2通	165	4				○	○		○
○		シャシ整備実習 II	動力伝達装置、アクスル及びサスペンション、ステアリング装置、ホイール及びタイヤ、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー	2通	150	3				○	○		○
○		電装整備実習 II	半導体、バッテリー、始動装置、充電装置、点火装置、電子制御装置、灯火装置、計器、ホーン、ワイパ、ウォッシャー、エアコン、電気装置の配線	2通	165	4				○	○		○
○		故障原因探求	ガソリンエンジン故障原因探求、ジーゼルエンジン故障原因探求、シャシ故障原因探求、電装故障原因探求	2後	60	1				○	○		○

○		自動車検査作業	道路運送車両法等の改正の概要、定期点検の実施時期、点検整備記録簿、自動車メーカーが指定する点検整備	2後	60	1				○	○		○		
○		エンジン電子制御	エンジン電子制御装置、吸入空気量信号回路、スロットル開度信号回路、電源回路、センサ、アクチュエータ	3通	120	8	○				○		○		
○		シャシ電子制御	シャシ電子制御装置、電子制御式オートマチックトランスミッション、電動式パワーステアリング、アンチロックブレーキシステム、オートエアコン	3後	90	6	○				○		○		
○		自動車新技術	ハイブリッドシステム、無段変速機、CNG自動車、筒内噴射式エンジン、コモンレールシステム、車両安定制御装置	3通	75	5	○				○		○		
○		環境安全	環境保全とその必要性、資源の有効活用、産業廃棄物の影響と対応、PRTTR法安全管理の意義、災害防止、職場における防火防災、救急処置についての心得	3通	30	2	○				○		○		
○		マナー	自動車整備業のリーダーとして求められるマナーや立ち振る舞いの習得	3前	15	1	○				○		○		
○		SPI	就職試験で出題されるSPI（非言語問題、言語問題）の解答解説。分数の計算からはじまり最終的には確率の問題まで解けるように演習を実施する。漢字の読み書きの問題の実施。	3通	30	2	○				○		○		
○		就実	自動車整備業界の研究や自己分析を進めて、社会人になる準備を行う。	3通	60	4	○				○		○		
○		産マネ	日経産業新聞を教材とし、新聞の読み方の基本を学ぶ。自動車業界の記事に対しての個人の考えや評価を作成、また個人作業の中でグループディスカッションを実施。	3通	60	4	○				○		○		
○		GCB II	「志を立てる」をテーマに人間力を育む麻生専門学校グループ独自のカリキュラム。自動車整備業界のリーダーに相応しい行動力や意欲を持たせていく。	3後	15	1	○				○		○		
○		スペシャルゼミ I	新技術への対応力の習得 レーダーブレーキサポート、ハイブリッドモータ制御、スマートキーエントリーシステム、アイドルストップ等について研究・発表	3後	90	2					○	○		○	
○		スペシャルゼミ II	CAN通信、エンジン高度故障診断、ABS、オートエアコン、シャシ高度故障診断	4前	90	2					○	○		○	

○		総合実習	リーダーとして整備業界をけん引していくことを前提に、部下(下級生)への確実な基礎実習の教授、実習作業時の安全管理・監督を行い、部下(下級生)を育成および指導する。	3前	135	3				○	○	○			
○		高度診断技術	ダイアグノーシス機能の理解、外部診断機を活用した故障診断要領の理解、基本点検作業の習得、DGとフェイルセーフの研究	3前	120	3				○	○	○			
○		故障探求Ⅰ	振動・騒音分析器の有効な機能を紹介し、各々の状況下で最適に活用し、振動・騒音の解析を行うとともに、振動・騒音の低減の効果についての研究を行う。	3後	120	3				○	○	○			
○		故障探求Ⅱ	異常検知範囲の研究 検出信号電圧を変化させてマイコンの閾値の研究、異常検知外でのデータ解析及び症状の確認	4前	90	2				○	○	○			
○		故障探求Ⅲ	過去に出題された国家試験を、車両及び診断機器等を用いて検証。また不具合が起こった場合の車両現象、電圧の変化等を研究し故障探求技術の向上及び理解度を向上させる。	4前	120	3				○	○	○			
○		故障探求Ⅳ	日整連発行「自動車定期点検整備の手引き」をもとに、不具合箇所を確認しながら点検作業を行う。受付から納車説明までを含めた流れの実践。	4前	120	3				○	○	○			
○		故障探求Ⅴ	過去に出題された国家試験を、車両及び診断機器等を用いて検証。また不具合が起こった場合の車両現象、電圧の変化等を研究し故障探求技術の向上及び理解度を向上させる。	4後	120	3				○	○	○			
○		総合診断	エンジン電子制御装置、シャシ電子制御装置、自動車新技術の内容の各装置の総合診断	4後	105	2				○	○	○			
○		自動車整備作業「体験実習」	国土交通省の規定に基づく内容 自動車の点検整備、故障原因探求、総合診断	4後	315	7				○	○	○	○	○	○
合計			45科目	3735単位時間(135単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
(卒業要件) 履修すべき全授業科目に合格していること。出席日数が出席すべき日数の90%以上であること。国土交通省の定める規定の時間を満たしていること。 (履修方法) 各授業科目の総授業時間数の3分の2以上出席し、C評価以上の評価を取得することで、当該科目を履修したことを認める。	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	15週	